様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：８４４１８
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０２７５

研究課題名（和文）明治・大正・昭和前期における児童出版文化史の研究　元博文館編集者の書簡調査から

研究課題名（英文）The Study of History of Children's Publishing Culture in the Meiji, Taisho, and Show a Periods: By examining letter of an ex-editon of Hakubunkan

研究代表者
土居　安子（Doi, Yasuko）

一般財団法人大阪国際児童文学振興財団・その他部局等・研究員

研究者番号：００４１６２５７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円、（間接経費）　　1,140,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、明治期の代表的な出版社である博文館の編集者・作家であった故・南部新一（1894～1986）の書簡を調査・研究することである。その成果として、まず、南部書簡を整理、撮影、データ化し、書簡の概要データをホームページで公開することによって、近代文学、児童文学、出版史等の基礎資料の整備ができた。
　そして、書簡の中から巖谷小波、木村小舟、池田文痴菴、博文館館員等の書簡について研究することで、博文館の児童雑誌の編集、明治・大正・昭和期の児童文学・児童文化の一端を明らかにすることができた。これらの成果は日本児童文学学会、及び当財団紀要で報告し、従来の児童文学研究の枠を広げ、深めることができた。

研究成果の概要（英文）：This study examines letters sent to Nambu Shinichi (1893-1996), who was an editor and author at Hakubunkan, the preeminet publisher in the Meiji Period. One of the achievements of this project has been the cataloguing of the letters according to sender. They were then photographed and summaries of their contents were posted on the IICLO homepage.
In addition, close study of letters written by Iwaya Sazanami, Kimura Shoushu, Ikeda Bunchian, and staff from Hakubunkan has resulted in giving us a clearer picture of the way Hakubunkan edited its children's magazines and of the general situation of children's literature and culture in the Meiji, Taisho, and Showa Periods. These results were presented at conventions of the Japan Society of Children's Literature and in IICLO Bulletins, thus broadening and deppening the study of children's literature and culture.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学

キーワード：児童文学　近代文学　児童文化

１．研究開始当初の背景
（１）貴重な資料の存在
　大阪府立中央図書館国際児童文学館には、かつて博文館の編集者であり、作家でもあった故・南部新一（1894～1986、以下南部とする）の旧蔵資料が多数収蔵されており、その中には１万７千点以上の書簡（以下、南部書簡）が含まれている。南部が交流した児童文学のみならず、近代文学分野でも多くの作家・画家や文化人からの書簡が存在しているが、これまで未整理、未発表であった。

（２）未開拓な部分が多く残されている児童文学・児童文化史研究
　これまで、児童文学・児童文化史研究は出版された図書・雑誌中心に行われ、それぞれの時代の人々の交流や活動に関する研究は限定的である。

（３）児童文学・児童文化研究と近代文学等周辺領域との関わり
　明治・大正・昭和時代は多くの近代文学作家や画家が児童文学や児童文化と関わりを持っていたが、その解明は充分とは言えない。

（４）巖谷小波研究
　明治期の児童文学の中心的人物であった巖谷小波は、彼の日記研究をはじめ、多くの研究がなされているが、書簡研究はほとんどなされていない。

（５）博文館研究
　博文館が発行していた大人向け雑誌『太陽』についての研究は先行研究があるが、児童対象の図書、雑誌についてはまとまった形での研究は見られない。

（６）南部新一研究
　博文館や雑誌編集について検討するために必要であると考えられる南部新一についての研究はほとんどなされてきていない。

２．研究の目的
（１）資料の公開
　南部資料を整理し、公開することによって研究の基礎資料とする。

（２）児童文学・児童文化史研究
　これまで未開拓であった児童文学・児童文化に関わる人々の書簡を読み解き、そこから児童文学史、児童文化史を問い直す。

（３）児童文学・児童文化研究と近代文学等周辺領域との関わり
　南部書簡の中から近代文学作家等を取り上げ、当時のネットワーク状況の中から児童文学観、児童文化観を問い直す。

（４）巖谷小波研究
　南部書簡に含まれる巖谷小波書簡を読み解くことにより、児童文学史、当時の雑誌編集のありよう等を検証する。

（５）博文館研究
　南部書簡の差出人の多くが博文館関係者であることから、明治時代には一大出版文化を築いた博文館の時代による変化を読み取る。書簡の中には雑誌編集者である南部と作家・画家との生々しいやりとりが記録されているものも多く、この期の雑誌作りの一面を明らかにする。

（６）南部新一研究
　編集者として明治～昭和を生き抜き、多くの作家・画家・研究者らとの交流も盛んであった南部像を書簡全体から読み取ることによって、一人の編集者を通してみた児童出版史をまとめる。

３．研究の方法
（１）南部書簡の整理
　全ての書簡を差出人別に整理し、内容の概要をまとめてデータ化する。

（２）研究会・合宿の実施
　３年間、２か月に１回程度の研究会、および合宿を行い、メンバーが個別のテーマを持って発表し、研究を深める。

（３）ラウンドテーブル・講演・シンポジウムの開催
　研究会で課題になったテーマを日本児童文学学会のラウンドテーブルで発表したり、外部の講師を招いて講演やシンポジウムを行うことによって、研究を深める。

（４）紀要論文の発表
　研究成果を論文にまとめ、発表する。

４．研究成果
（１）南部書簡資料の整備
　大阪府立中央図書館国際児童文学館が所蔵する南部旧蔵の書簡総数 17,216 通中、近代文学、児童文学、児童文化、出版など、各分野の著名作家・画家・編集者等から発信された 5,256 通を抜きだし、撮影するとともに、書簡概要（発信地、発信年月日、主な内容等）のデータ入力を行った。
　差出人および書簡数のデータは、「大阪国際児童文学振興財団　研究紀要」27 号に発表すると同時に、書簡の内容の概要を大阪国際児童文学振興財団のホームページで公開した。
　それによって、児童文学、児童文化、近代文学等の基礎資料の整備と公開を行うことができた。
　翻刻については限られた書簡しか行われていないため、今後の課題である。

（２）児童文学・児童文化史研究

これまで未開拓であった児童文学・児童文化に関わる人々の書簡の中から児童文学史、児童文化史を問い直した。

①口演童話家の研究：松美佐雄研究
南部書簡の松美佐雄を詳細に読み取り、松美佐雄という口演童話作家がいかにして生まれたのか、作家活動と口演活動はいかに結び付けられていたのかなどが明らかになった。

②企業文化と児童文化：池田文痴菴研究
南部新一コレクションのなかから森永製菓関係の資料を抽出し、南部が博文館退館後に興した青蘭社出版部(1928～1932 年)と同社との関わりを明らかにした。また、昭和初期に森永製菓が広告宣伝のために絵本や絵雑誌、漫画等の児童文化を活用した様子や、その中心を担った池田文痴菴の仕事について紹介と検討を行った。
これによって、児童文化研究に企業との関わりという新しい基軸を持ち込んだ研究方法が提案されると同時に、これまで詳らかにされてこなかった森永製菓と児童文化の関わりの一端を明らかにすることができた。

（３）児童文学・児童文化研究と近代文学等周辺領域との関わり
書簡リストには、452 人中、作家 126 人、画家 86 人が含まれる。
「大阪国際児童文学振興財団　研究紀要」27 号の「南部書簡から見た博文館―館員（元館員）からの書簡を中心に―」の中には小説家である江見水蔭、井口長次（山手樹一郎）、版画家の江南兼吉（史朗）等博文館館員でもあった作家・画家の書簡内容の検討も行われ、それぞれの作家の児童文学観、雑誌観を検証することができた。
それ例外の書簡について、内容と児童文学・児童文化の関わりについては今後の課題である。

（４）巖谷小波研究
①南部書簡を通した小波研究
小波の書簡を丁寧に読み解き、そこから読み取れる内容についてまとめた。雑誌編集について、博文館との関係について、著書について、口演童話活動についてなどの内容があり、南部との親密な関係の中で小波の率直な考えや思いを読み取ることができた。

②巖谷小波研究の今日的意義の見直し
第 52 回日本児童文学学会研究大会において、「巖谷小波研究の現在－没後 80 年、児童文学研究の可能性を考える」という講演会、およびシンポジウムを行い、小波研究の意義について問い直しを行った。
小波の孫であり、シュルレアリスムの研究者である巖谷國士からは、巖谷小波作品と手塚治虫、澁澤龍彦に見られる共通性から近代的自我というテーマを問い直し、小波作品の再評価が行われた。
また、小波研究を行っている金成妍、中川理恵子、勝尾金弥、藤本芳則からは、小波研究の現状と今後の課題についての報告があり、韓国と日本の小波を軸にした児童文学・児童文化研究の重要性、小波作品と現在の幼年文学の共通性、小波を中心とした当時のネットワーク状況の調査の必要性、南部書簡をはじめとする小波関係資料の整備の必要性とそれらの緻密な研究の重要性が確認された。これは「大阪国際児童文学振興財団　研究紀要」27 号にまとめた。

（５）博文館研究
①児童向け雑誌主要編集者の研究
博文館発行の児童向け雑誌である「少年世界」や「幼年世界」の主要編集者であった巖谷小波、武田鶯塘、木村小舟の書簡をとりあげ、そこから博文館や雑誌編集に関わる内容をまとめて第 51 回日本児童文学学会研究大会のラウンドテーブルで研究分担者が発表すると同時に、その内容に加筆し、「国際児童文学館紀要」26 号にまとめた。
そこからは、雑誌編集の指示の出し方、挿絵と文章の編集の仕方、広告の作成方法などが明らかにされた。
また、巖谷小波と博文館の確執についてもこれまでの研究を深めることができた。

②博文館館員（元館員）の書簡研究
南部書簡の中から博文館の館員、元館員 40 名の書簡を抜き出し、それらの概要をまとめた。
特に、大正期の博文館館内の様子、博文館発行の雑誌「少年世界」「少女世界「幼年画報」「幼年世界」「少年少女譚海」の編集状況、館員と南部の交流、館員の経歴等の一端を明らかにし、博文館が館員にとっていかなる出版社であったのか、南部の編集していた雑誌を同じ館員がいかに評価していたのかなどについてまとめることができた。

（６）南部新一研究
①青蘭社発足と木村小舟
南部は、博文館退社後、青蘭社という出版社を独自に興すが、南部書簡から、木村小舟がその活動を支えていたことがわかった。特に絵雑誌の発行権の取得については木村小舟が南部に出版社を紹介していたことがわかった。
また、発行場所に木村の自宅を提供したり、雑誌に作品を寄稿するなど、さまざまな側面から木村が南部を支援していたことが明らかになった。

②南部のネットワーク状況
研究対象としたすべての書簡が南部新一宛てであり、書簡を整理することによって、南部を中心としたネットワーク状況が把握

できた。南部は、博文館の館員の主流である大橋家ともつながりがなく、早稲田大学出身者でもなかったため、雑誌編集において知り得た印刷担当者や少年時代から博文館にあこがれて入館した館員、投稿者から作家や画家になった人たちとの交流が深かったことがわかった。

そこで、今後は書簡の内容を詳細に研究すると同時に、当時の雑誌や図書との関連、博文館の動静との関連をまとめることによって、一人の編集者を通してみた児童出版史をまとめることを課題とする。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

①土居　安子、南部書簡から見た博文館―館員（元館員）からの書簡を中心に―、大阪国際児童文学振興財団研究紀要、査読無、27 号、2014、pp.33-63

②酒井　晶代、南部新一と森永製菓
―昭和初期における製菓会社の児童文化戦略をめぐって―、大阪国際児童文学振興財団研究紀要、査読無、27 号、pp.15-31

③浅岡　靖央、松美佐雄と南部新一ある口演童話家の誕生―、大阪国際児童文学振興財団研究紀要、査読無、27 号、pp.1-14

④遠藤　純、新井弘城（南部新一）宛　巖谷小波書簡について、国際児童文学館紀要、査読無、26 号、pp.15-30

⑤小松　聡子、武田鶯塘の書簡から見えてくるもの、国際児童文学館紀要、査読無、26 号、pp.31-44

⑥土居　安子、報告　明治・大正・昭和前期における児童出版文化史の研究－元博文館編集者の書簡調査から－、国際児童文学館紀要、査読無、25 号、2012、pp.49-55

〔学会発表〕（計２件）

①遠藤　純（他）、ラウンドテーブル：「南部新一書簡から見えてくるもの―博文館に関わる人々とのやりとりを中心に―」、日本児童文学学会第 51 回研究大会、2012 年 10 月 28 日、千葉大学

②巖谷　國士（他）、「巖谷小波研究の現在―没後 80 年、児童文学研究の可能性を考える」（講演、シンポジウム）、日本児童文学学会第 52 回研究大会、2013 年 11 月 10 日、広島経済大学

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）
○取得状況（計　0 件）

〔その他〕
ホームページ等
南部新一書簡リスト
http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/01_research/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
土居　安子（DOI, Yasuko）
一般財団法人　大阪国際児童文学振興財団・主任専門員
研究者番号：００４１６２５７

(2)研究分担者
遠藤　純（ENDO, Jun）
華頂短期大学・准教授
研究者番号：１０４１６２５８

小松　聡子（KOMATSU, Satoko）
一般財団法人　大阪国際児童文学振興財団・特別専門員
研究者番号：９１０４１６２５６

酒井　晶代（SAKAI, Masayo）
愛知淑徳大学・教授
研究者番号：１０２７９９５３

三宅　興子（MIYAKE, Okiko）
梅花女子大学・名誉教授
研究者番号：８０１６６１３１

(3)連携研究者
浅岡靖央（ASAOKA, Yasuou）
日本児童文化専門学校・専任講師

伊藤　元雄　（ITO, Motoo）
南部新一著作権管理団体代表者